



茨木市立東中学校 生徒指導推進委員会  
生徒指導通信9号 令和4年2月3日  
文責：生徒指導主事 森山 聡

根気よく、主体的に学ぼう ～自分も周囲の人も大切にしよう～ 自分と向き合い、進路を切り開こう

## ～豊かかって何だろな～

コロナ感染症第6波の中、東中も休校となっていた最中に大きなニュースが2つ飛び込んできた。東京の大学入試会場で受験生への刺傷事件、大学入試中のスマホによるカンニング事件だ。

犠牲になった方はもちろん周りの人への影響も大きくあたえた2つの事件は衝撃的なものだ。2つの事件の程度は違うと思うが、共通して言えるのは若者が精神的に追い詰められて一線を越えてしまった面もあると思う。

〇〇大学に入らなければならない・学歴がすべて・〇〇点とらなければならない・結果をださなければならない・などと言った価値観を否定するつもりはありません。

事実として、その結果が豊かさにつながる事も世の中にある。

しかし、それは常に「主語は自分」でなければならない。

もし周りから批判されたり、馬鹿にされるからであれば、そんな事は気にしなくてもいい。そんなネガティブな声も含めて「多様性」。そういう考えの人もいるのも事実で、それも受け入れながらやっていかなければならないけど、その人達に認められたいために勉強やスポーツをしている・・・なんてことはない。

だから、精一杯やった自分の力を信じて、周りの声は受け入れながらも、最後は自分のためにやる。それでいいと思う。

結果として、上手い出来ないことも人生あるけど、その結果であれば「豊かさ」は感じると思う。

有名大学での学歴がほしい人もいれば、大学でやりたい事を追及する豊かさを求める人もいる。

有名レストランで食べる事が豊かさと感じる人もいれば、実家の手料理が最高の食と思う人もいる。

サッカー選手として海外でのプレーを望み、その可能性が低くなり引退する選手もいれば、三浦知良選手のようにサッカー選手であり続ける事を信念に54歳になり、トップのリーグでのプレーができなくてもサッカー選手であり続ける事を「豊かさ」と思い、現役にこだわる人もいる。

もちろんそんな考えになろうと思ってなれるわけではなく、それなりに自分なりの強さが必用になることもあります。

3年生は受験が迫ったこの時期、1・2年も進級を目の前にそれぞれの力に期待も不安も感じるこの2月。SNSなども身近にあり、様々な情報が目に飛び込んできて、不安になったり、不安だからこそ自分も批判的にとらえてしまったりすることもあります。大切な事は自分自身です。

ぜひとも「主語は自分」であり何ものでもない事を心において、今やるべきことをやっていきましょう。

東中の先生達は、そんなあなた達をどんな時でも応援していますよ。

## ～みなさんをお願い～

『バレンタインデー』 学校でのお菓子などの交換は、無しです。

理由は・・・

簡単に言うと、校則で「お菓子の持ち込み禁止」となっているからです。

ただ、それだけではなく、個人でバレンタインを楽しんでいるうちはいいのですが、今のように友チョコであったりする形が主流になると、チョコをはじめとするお菓子交換は「友達」や「お世話になったと思っ」ている証の品となります。多くの人がそれをすると、自分も渡さないといけないという強迫観念も生まれます。もらう側も、もらった数とか、どうでもいいことが気になり出します。

これこそ「豊かさ」が何なのか分からないバロメーターになってしまいます。

様々な考えや状況がある中で強制的に交換しているようなグループもあったようですが、保護者からも、「お金がかかりすぎる」「お菓子を作るのに時間がかかりすぎる」「きまりだからしないわけにはいかないと言」などと、相談が寄せられるようになりました。

校則だから・・・だけではなく、

以上のような理由から、学校でのお菓子などの交換は禁止にします。ここ数年この呼びかけに答えて、校内での違反はありませんでした。我々先生も受け取りません。

校外で個人で楽しむことは自由ですが・・・

何が「豊かさ」なのかを考えてほしいなど、気持ちは別の方法で伝えることを考えてもらえればと思います。

